

第3章 宮城県環境基本計画の進捗状況

第1節 宮城県環境基本計画の基本的事項

1 宮城県環境基本計画の役割等

(1) 宮城県環境基本計画の役割

宮城県環境基本計画は、環境基本条例に基づき、本県の良い環境の保全及び創造に関する総合的かつ長期的な目標並びに県の施策の大綱を定めるものであり、目指す将来像を明らかにし、県民、事業者、民間団体などの各主体が、環境に関し考え、行動する際の指針となるものです。現行計画(第4期)は、令和3年3月に策定されました。

宮城県環境基本計画は、環境分野の個別計画に基本的方向性を与えるものとして策定されており、数値目標や具体的な施策は、これらの個別計画において定めています。

< 宮城県環境基本計画の環境の将来像 >

豊かで美しい自然とともに、健やかで快適な暮らしが次世代へ受け継がれる県土

- ・私たちの生活は自然環境を礎とした生態系の中で成り立っており、地球温暖化などの気候変動をはじめとする環境課題に取り組むことが重要です。
- ・自然災害への耐性や回復力を備えた、強くしなやかな社会を形成するとともに、豊かで美しい自然と共生した、将来にわたり安心して快適に暮らせる県土を目指します。

持続可能な社会の実現に向けてすべての主体が行動する地域社会

- ・日常生活や事業活動によって生じる環境への負荷を抑制することが、持続可能な社会の実現のために不可欠です。
- ・2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロとする目標を掲げ、県民、事業者、民間団体及び行政など地域社会を構成する全ての主体が、省エネルギー、省資源、自然環境への配慮などに「自分ごと」として取り組み、一人一人が着実に行動する地域社会の形成を目指します。

2 将来像実現のための政策と施策項目

第4期計画では、「SDGs(持続可能な開発目標)」やパリ協定など国内外の動向を踏まえ、新たに「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」を長期目標に掲げて取り組んでいくほか、「3つの基本方針」と「4つの政策の柱」を基に、総合的・計画的に環境政策を推進していきます。

(1) 将来像を実現するための基本方針

基本方針1

「震災復興計画」以降の社会・経済の状況を見据えた新しい宮城の環境の創造

基本方針2

SDGsや「地域循環共生圏」の考え方を踏まえた、環境・経済・社会の統合的向上

基本方針3

気候変動の影響への適応



(2) 計画期間

令和3年度から令和12年度までの10年間

(3) 目指す環境の将来像

宮城県環境基本計画では、計画の推進により目指す本県の環境の将来像として、「豊かで美しい自然とともに、健やかで快適な暮らしが次世代へ受け継がれる県土」と「持続可能な社会の実現に向けてすべての主体が行動する地域社会」を掲げています。これは、計画最終年度に向けた目標であるとともに、その先も引き続き目指す中長期的な将来像です。

(2) 将来像を実現するための政策・施策

政策1 脱炭素社会の構築

- 施策1 地球温暖化対策の更なる推進
- 施策2 気候変動対策の推進
- 施策3 徹底した省エネルギーの推進
- 施策4 地域に根ざした再生可能エネルギー等の導入・活用やエコタウン形成の促進
- 施策5 水素社会の構築に向けた取組促進

政策2 循環型社会の形成

- 施策1 3R(発生抑制、再使用、再生利用)の推進に向けた全ての主体の行動の促進
- 施策2 循環型社会を支える基盤の充実
- 施策3 廃棄物や循環資源の3R、プラスチック資源の3R+Renewable(再生可能資源への代替)の推進
- 施策4 廃棄物の適正処理
- 施策5 公共施設等の適正な維持管理と有効活用

政策3 自然共生社会の形成

- 施策1 健全な生態系の保全及び生態系ネットワークの形成
- 施策2 生物多様性の保全、自然環境の保全・再生
- 施策3 自然資本の活用と価値創造
- 施策4 自然環境における気候変動の影響への対策
- 施策5 やすらぎや潤いのある生活空間の創造
- 施策6 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐ基盤づくり

政策4 安全で良好な生活環境の確保

- 施策1 大気環境の保全
- 施策2 水環境の保全
- 施策3 土壌環境及び地盤環境の保全
- 施策4 地域における静穏な環境の保全
- 施策5 化学物質による環境リスクの低減
- 施策6 放射性物質による環境リスクへの対応
- 施策7 気候変動の影響に対応した水資源の確保

全てに共通する取組

- 共通取組1 全ての主体における環境配慮行動の促進・支援、環境にやさしいライフスタイルへの転換
- 共通取組2 環境経営等の促進・支援、持続可能な経済システムの構築
- 共通取組3 各主体相互のパートナーシップによる協働・連携の推進・支援
- 共通取組4 持続可能な社会づくりを支える環境技術の開発・普及・支援
- 共通取組5 環境教育、情報の集約・発信、普及啓発
- 共通取組6 環境の保全・活用に関する協定の締結、開発行為等における環境配慮
- 共通取組7 規制的措置、公害紛争等の適切な処理及び環境犯罪対策

3 宮城県環境基本計画の進行管理

宮城県環境基本計画における将来像の実現のための政策に係る具体的な施策は、主に各分野の個別計画により推進することとしています。

宮城県環境基本計画の進行管理に当たっては、政策ごとに進捗状況を示す管理指標を設定し、毎年度、各管理指標の数値目標の達成状況により評価を行います。

評価の結果は、宮城県議会、宮城県環境審議会に報告するとともに、宮城県環境白書として公表して県民の皆様からの御意見をいただき、定期的に施策や事業を見直し、新たな施策や事業の検討を行うことで、PDCAサイクルの環境マネジメントシステムを運用していくこととしています。

将来像実現のための政策	個別計画	計画の概要
脱炭素社会の構築	宮城県地球温暖化対策実行計画(区域施策編)	脱炭素社会の実現に向けて、県域全体からの温室効果ガスの排出抑制及び気候変動適応の推進を行うための計画
	再生可能エネルギー・省エネルギー計画	脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの導入及び省エネルギーを促進するための計画
循環型社会の形成	宮城県循環型社会形成推進計画	循環型社会の実現に向けて、廃棄物等の3Rと適正処理を推進するための計画
自然共生社会の形成	宮城県自然環境保全基本方針	人と自然の共生を目指し、長期的展望に立った自然環境保全施策を推進するための方針
	宮城県生物多様性地域戦略	県の生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する計画
安全で良好な生活環境の確保	宮城県水循環保全基本計画	健全な水循環を保全するための計画
	宮城県自動車交通環境負荷低減計画	自動車交通に関する環境負荷を低減させるための計画

第2節 宮城県環境基本計画の進捗状況

1 令和3年度実績に関する点検評価結果

令和3年度実績に関する点検評価結果については、宮城県環境基本計画の実施計画となる7つの計画を踏まえ、「脱炭素社会の構築」「循環型社会の形成」「自然共生社会の形成」「安全で良好な生活環境の確保」の4つの政策に対し設定した17の管理指標の状況を以下の表のとおり整理しました。

管理指標によっては、データが入手できないため、評価年度が数年前となるものもありますが、測定可能な直近年度においては、管理指標17項目のうち7項目で目標を達成しました。

▼表1-3-2-1 政策項目ごとの管理指標の目標値達成状況及び計画全体の評価結果

政策項目	管理指標		単位	評価年度における状況				参考		
	番号	指標名称		年度	実績値	評価年度での目標数値	目標達成状況	評価年度の前年度実績	前年度比	
政策1 脱炭素社会の構築	1	温室効果ガス排出量 (森林等による吸収量を差し引いたもの。)	千t-CO ₂	H29	20,112	20,679	○	20,349	-1.2%	↑
	2	再生可能エネルギー導入量	TJ	R3	23,949	26,899	△	22,615	+5.9%	↑
政策2 循環型社会の形成	3	県民1人1日当たりの一般廃棄物排出量	g/人・日	R2	977	930	△	990	-1.3%	↑
	4	一般廃棄物リサイクル率	%	R2	24.2	30	×	24.9	-0.7ポイント	↓
	5	一般廃棄物最終処分率	%	R2	12.0	12	○	11.9	+0.1ポイント	→
	6	産業廃棄物排出量	千t	R2	10,248	10,000	△	10,486	-2.3%	↑
	7	産業廃棄物リサイクル率	%	R2	34.5	35	△	33.7	+0.8ポイント	↑
	8	産業廃棄物最終処分率	%	R2	1.3	1.0	△	1.6	-0.3ポイント	→
政策3 自然共生社会の形成	9	豊かな生態系 (森林・農地・水辺環境の保全)	点	R3	6.9	7.1	×	7.0	-0.1ポイント	→
	10	森林整備面積	ha/年	R3	3,221	5,890	×	3,608	-10.7%	↓
	11	農村環境保全等の協働活動に参加した人数	人	R3	61,014	60,500	○	59,484	+2.6%	↑
政策4 安全で良好な生活環境の確保	12	大気汚染に係る環境基準達成率	%	R3	100	100	○	100	+0.0ポイント	→
	13	大気中揮発有機化合物の環境基準達成率	%	R3	100	100	○	100	+0.0ポイント	→
	14	道路に面する地域における自動車交通騒音の環境基準達成率	%	R3	95.7	100	△	95.4	+0.3ポイント	→
	15	清らかな流れ (水質環境基準の達成度)	点	R3	7.7	8.0	×	7.7	+0.0ポイント	→
	16	豊かな流れ (平常時の河川流量の豊かさ)	点	R3	8.7	8.7	○	8.7	+0.0ポイント	→
	17	安全な流れ (河川・海岸整備率の向上)	点	R3	6.6	6.3	○	6.1	+0.5ポイント	↑

※ 令和3年度実績がまだ算出できない指標については、算出可能な最新年度の実績から計算される点数を示しています。その際、第4期計画と第3期計画の目標値が異なる場合は、第3期の目標値により評価しています(指標1,3及び5が該当)。

※ 指標1については、個別計画を修正中であり、試算方法も再検討中であることから、前年度評価(R3年版白書と同様)を入力しています。

※ 「前年度実績との比較」の表示の意味は以下のとおりです。

○: 評価年度での目標を達成した項目

↑: 前年度実績と比較して、0.5ポイント以上向上・改善した項目

△: 評価年度での目標未達成だが、数値が向上・改善した項目

→: 前年度実績からの増減幅が0.5ポイントに満たない項目

×: 評価年度での目標未達成で、数値が後退した項目

↓: 前年度実績と比較して、0.5ポイント以上後退した項目

※ 具体的な内容は、10ページ以降の各個別計画の進捗状況に関する箇所で紹介しています。